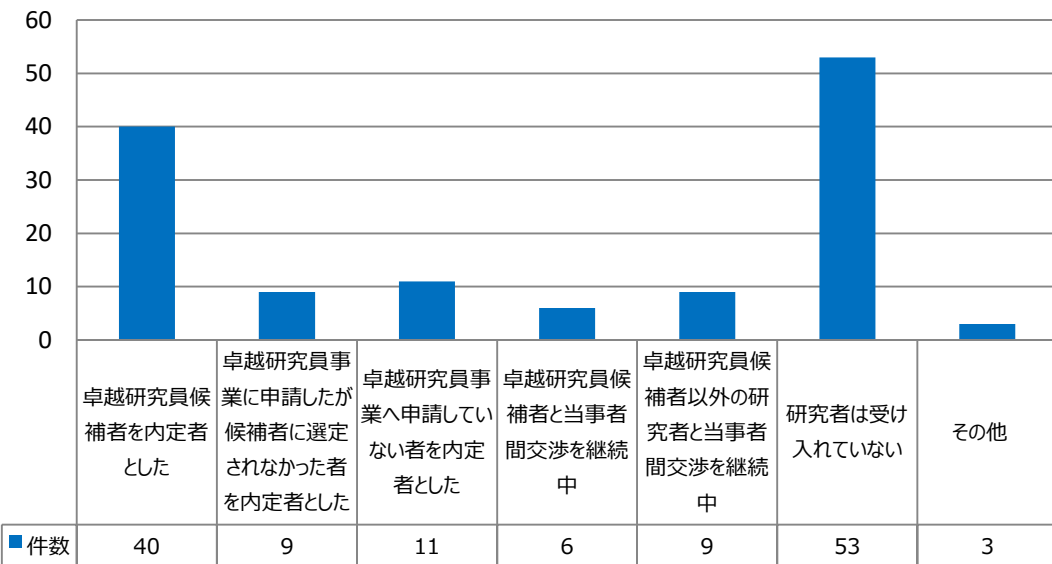


# 平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況①）

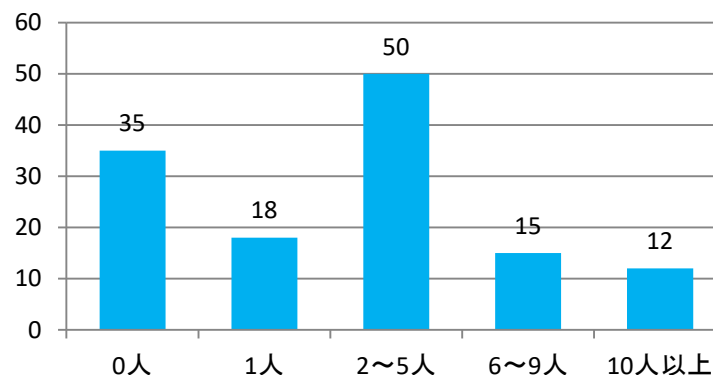
平成30年度に卓越研究員事業にポストを提示した機関に対して、当事者間交渉状況等についてアンケートを実施（H30.10実施 対象数：59機関・156ポスト、回答数：45機関・130ポスト（回答率83.3%（ポスト））

## <現在のポストの状況>

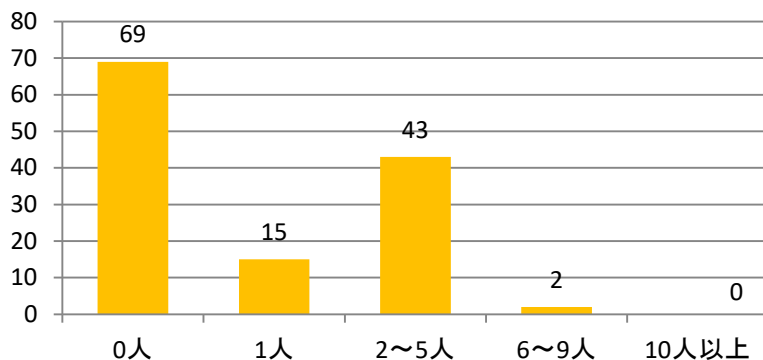
※同一ポストで複数人を募集している場合は、複数回答可



## <当事者間交渉を行った候補者又は申請者の数>



## <当事者間交渉のため、機関側から連絡した者の数>

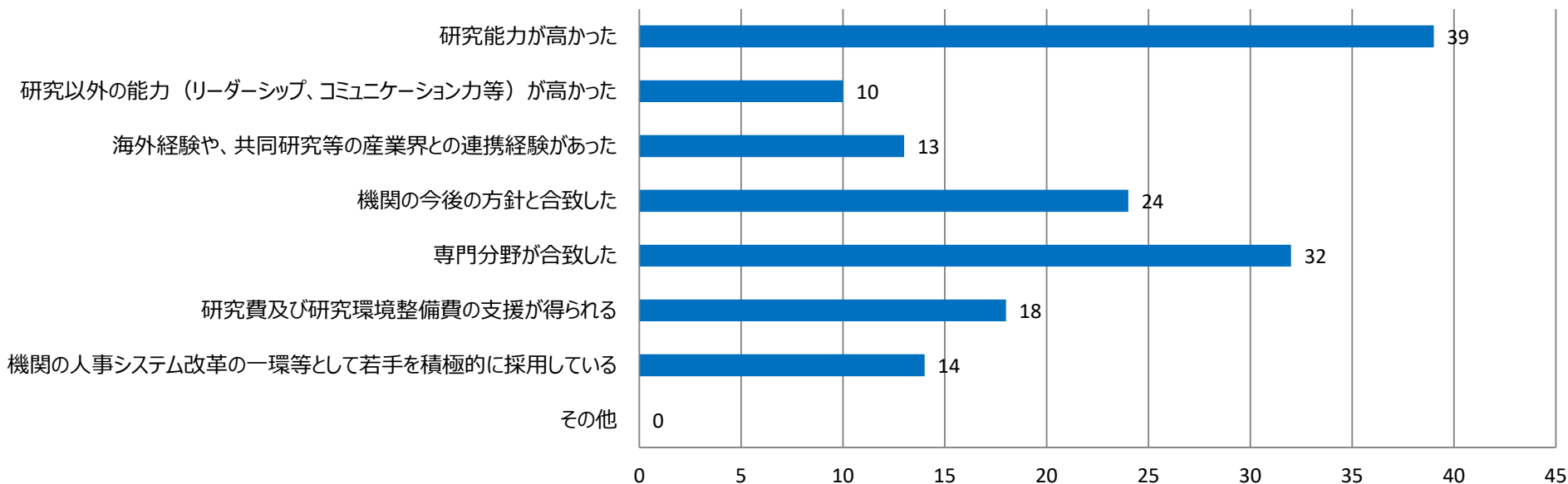


### 機関側から連絡をしなかった理由

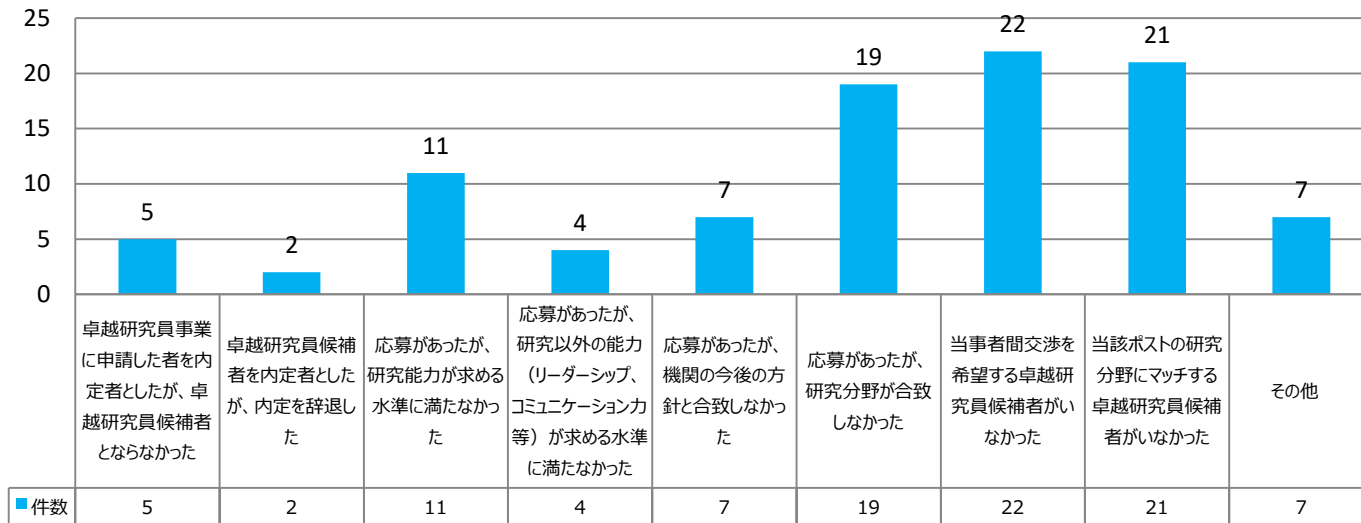
- ・候補者から先にコンタクトするように運用していたため
- ・ポスト一覧化公開時から問い合わせがあり、必要性を感じなかったため
- ・研究分野が合致しなかったため
- ・応募者を優先して交渉を開始したため
- ・企業での研究者としての意欲又は資質がある人が見いだせなかったなど

# 平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況②）

## ＜内定にあたり採用した卓越研究員候補者を特に評価した理由（複数選択可）＞



## ＜卓越研究員候補者を内定者としなかった理由（複数選択可）＞

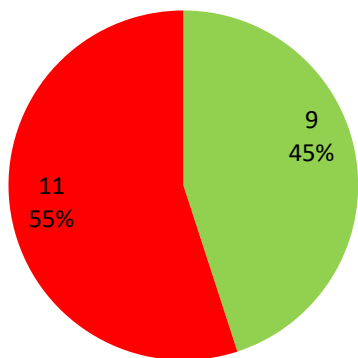


その他の主な内容

- ・研究分野のマッチする候補者は別の機関に採用が決まっていたため
- ・本学以外の機関と交渉が進んでいたため など

# 平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況③）

## <卓越研究員候補者以外からの採用の状況>

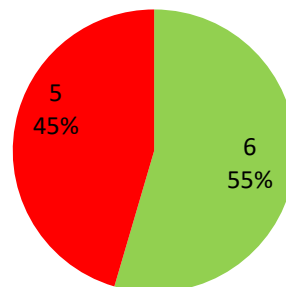


■ 卓越研究員事業に申請したが候補者に選定されなかった者を内定者とした

■ 卓越研究員事業へ申請していない者を内定者とした

## ※2.卓越研究員事業へ申請していなかった者の詳細

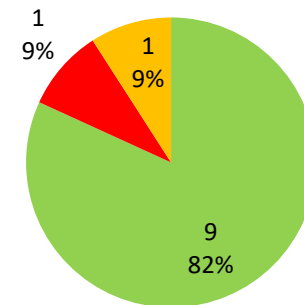
### 年齢層



■ 40歳未満（医学系出身者は43歳未満）

■ 40歳以上（医学系出身者は43歳以上）

### 学位取得状況

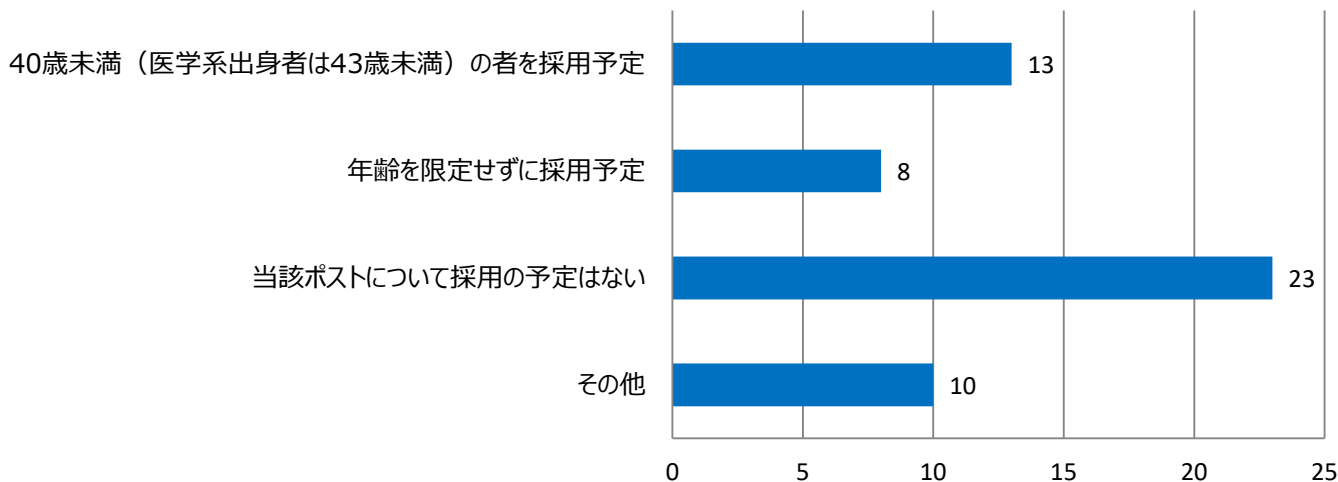


■ 博士号取得者、博士満期退学者、海外PhD

■ 修士号取得者

■ 学士号取得者

## <研究者を受け入れていないポストの今後の活用予定（複数選択可）>

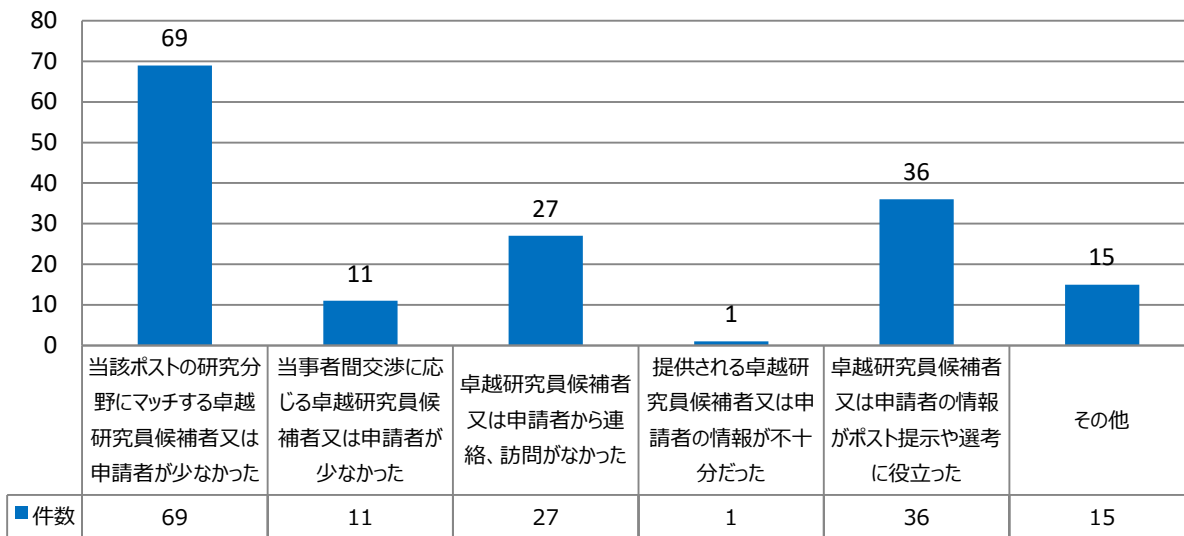


### その他の主な内容

- ・次年度(H31年度)に同様の内容にて公募予定
- ・再公募のうえ選考中
- ・次年度以降に再公募を予定
- ・現時点で未定 など

# 平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況④）

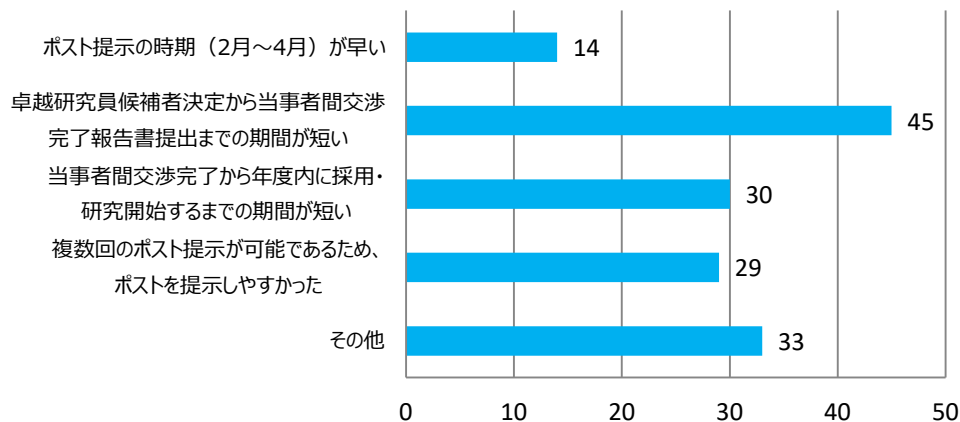
## <卓越研究員候補者又は申請者について（複数選択可）>



### その他の主な内容

- ・当該ポストの研究分野にマッチする卓越研究員候補者が非常に多かった
- ・分野不整合、又は能力不足で採用に至らなかった
- ・卓越研究員候補者の選考が業績重視に感じられる部分があった
- ・事前連絡で応募書類提出を求め、候補者について必要な情報を得た など

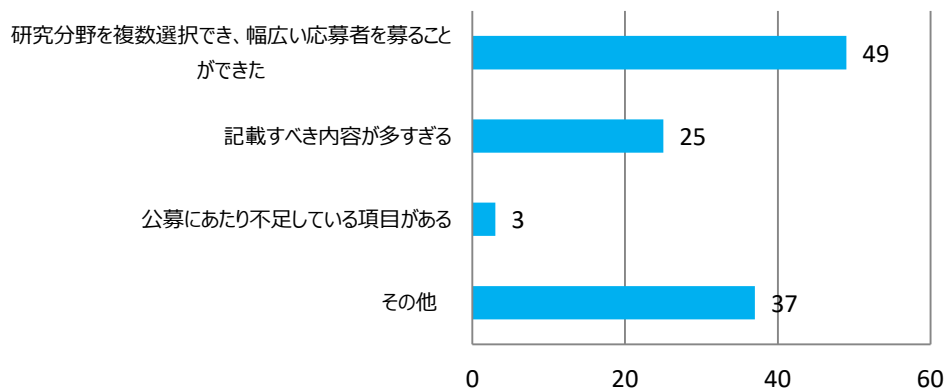
## <交渉のスケジュールについて（複数選択可）>



### その他の主な内容

- ・1つのポストを不採択になった候補者が別のポストに再チャレンジする機会がほとんどない
- ・機関への候補者リストの連絡を早くしていただきたい
- ・特に支障はなかった など

## <ポスト提示の様式について（複数選択可）>

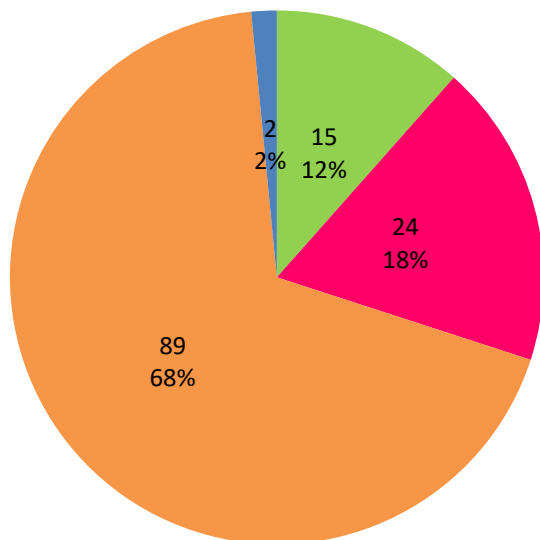


### その他の主な内容

- ・和英併記を必須とする必要は無いのでは
- ・機関HPやJREC-INで補足情報を示すことができるので、現状の様式で良い
- ・内容は多いが必要な情報なので問題なし など

# 平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況⑤）

## <平成30年度申請者（若手研究者）向け公募説明会への参加状況>

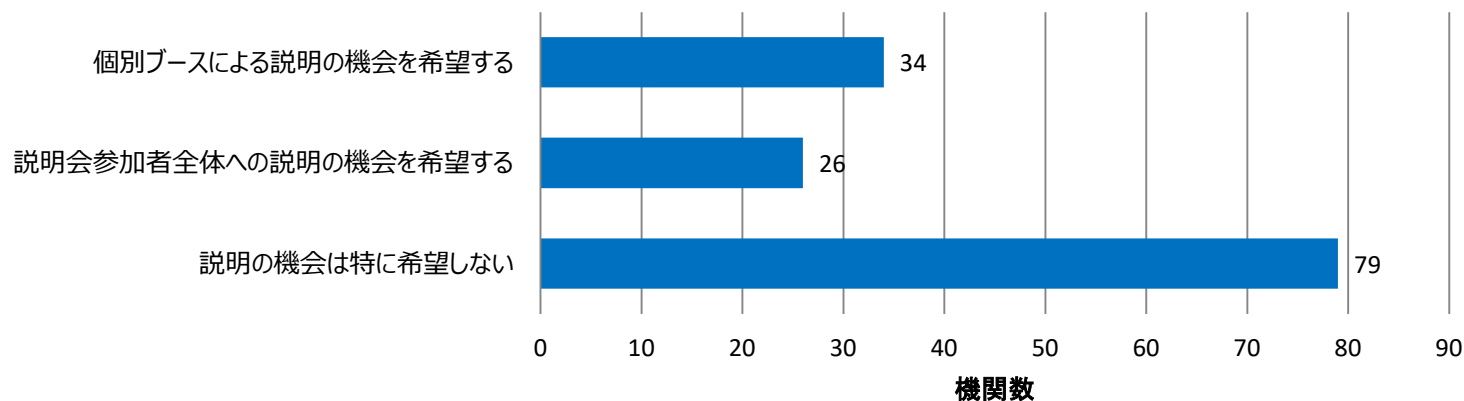


- 説明会に参加（全体説明又は個別ブース設置）し、募集に一定の効果があった
- 説明会に参加（全体説明又は個別ブース設置）したが、効果がなかった
- 説明会には参加しなかった
- 無回答

どのような効果があったか

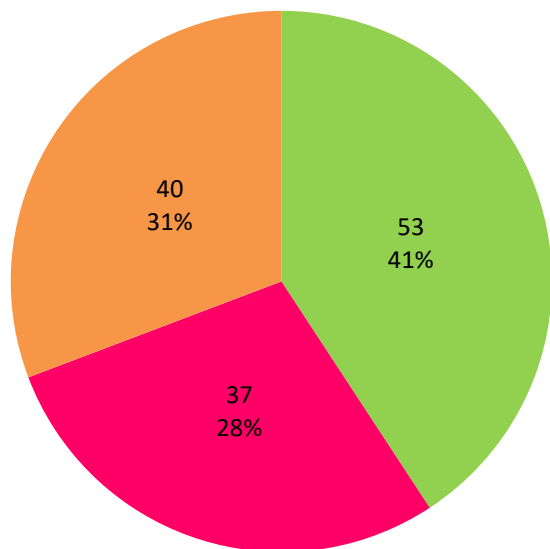
- ・個別説明した研究者から申請があった
- ・他分野を専門とするものの、提示ポストの分野に興味を持っている方に説明することができた
- ・研究分野のマッチングができた
- ・全体説明と個別説明で 存在感を示すことができた など

## <次年度研究者（若手研究者）向け公募説明会への参加希望（複数選択可）>



# 平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況⑥）

## ＜マッチング支援の利用希望＞

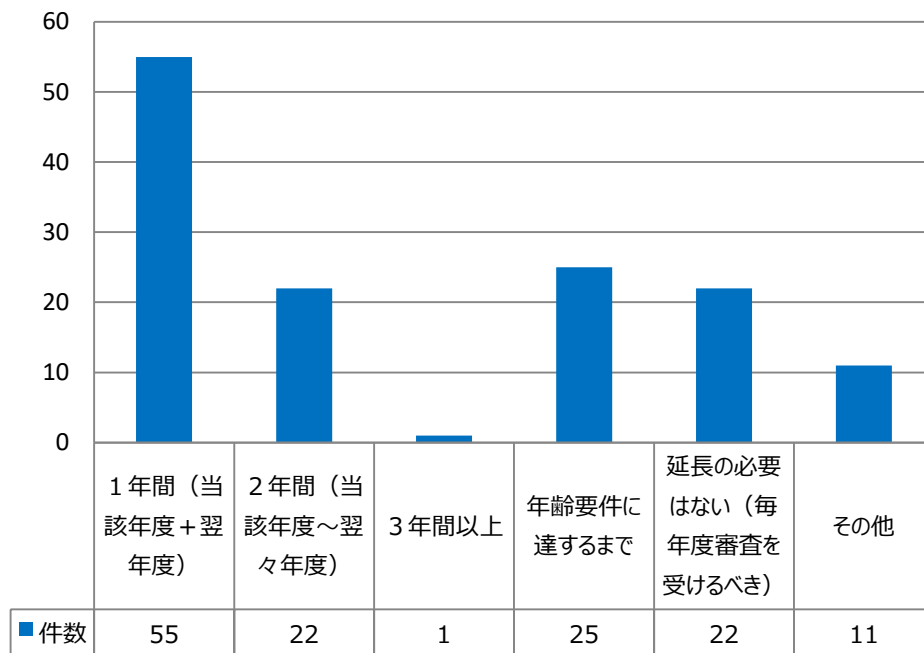


■ 利用したい ■ 利用の必要はない ■ どちらともいえない

### 必要はない、どちらともいえない 主な理由

- ・マッチング支援の具体的内容を踏まえて判断したいため
- ・間に第三者が入ると交渉が難しくなる
- ・応募者数が、対応可能な人数にとどまっているため
- ・本来、仲介業者をお願いすべき案件では無く、現在の進め方で良いと考えるため
- ・直接交渉したほうが早い。また、意志が的確に伝わる など

## ＜候補者資格の延長期間（複数選択可）＞



### その他の主な内容

- ・ポスト提示側としては候補者情報が適切に更新されれば延長期間は不問
- ・独自の審査を行うので、資格取得後の業績も含めて総合的に評価する など

# 平成30年度卓越研究員事業のアンケート結果（研究機関における当事者間交渉状況⑦）

## ○主な意見（改善希望事項等）

	意見分類	主な内容
A	制度改善全般に関すること	<ul style="list-style-type: none"><li>○候補者の決定から当事者間交渉、完了報告書の提出までの期間が短いため年度内に採用・研究の開始することが難しい。</li><li>○年齢要件の厳格化、もしくは多様化を要望する。</li><li>○ResearchMapと連携したデータ収集を希望する。</li><li>○機関がこの制度を活用するハードル（テニユアトラックポスト等）を下げる 것이重要。</li><li>○卓越候補者、全員が卓越している研究者でもないため、候補者選定基準を厳しくするか、「卓越研究員」という名称は変えた方が良い。</li></ul>
B	卓越研究員候補者の選考に関すること	<ul style="list-style-type: none"><li>○助教の採用であれば卓越研究員制度ではなく一般公募の方が採用につながる可能性が高いように感じた。</li><li>○卓越研究員候補者とならなかった場合、その理由を知らせるべき。</li><li>○卓越研究員候補者の選考基準が不明。</li><li>○卓越事業の応募人数が年々増加し、選ばれた候補者のレベルが上がっているように感じる。本機関に採用される人数も倍増している。</li></ul>
C	当事者間交渉に関すること	<ul style="list-style-type: none"><li>○卓越の申請者が候補者に選定される人かどうかの情報が何らかあれば事前交渉がしやすい。</li><li>○医歯薬学系の卓越研究員候補者が少ないためマッチングが困難である。</li><li>○候補者とのマッチングができるように分野の絞り込みができるように検討をしてほしい。（募集しているより近い分野の応募があるように）</li></ul>
D	経費に関すること	<ul style="list-style-type: none"><li>○機関は若手教員の人件費の確保に苦慮している。5年程度の人件費を措置する方が有用と考える。</li><li>○採用が翌年4月以降になっても研究費と環境整備費を確約して欲しい。</li><li>○補助金申請の書類をより簡易なもの（見積書等は不要など）にしたほうが、研究者の負担が少ないのではないか。</li></ul>